

# 原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(令和6年3月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:94)
2. 調査実施時期 令和6年3月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査  
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

## 4. 企業判断指数の算出方法

[ (回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%)) ]  
(最大値100/最小値-100)

## 5. 調査結果(回答工場数:87社 / 回答率:92.6%)

### 【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
R5.6	<b>26</b>	27	23	-	-	-
R5.9	-	<b>19</b>	26	17	-	-
R5.12	-	-	<b>10</b>	6	4	-
R6.3	-	-	-	<b>-10</b>	-2	<b>-13</b>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
当年	240,658	232,595	194,394	-	-	-
(前年)	175,044	178,153	181,049	217,366	240,658	232,595
対前年比	137%	131%	107%	-	-	-

(概況)  
原木在庫は引き続き前年を上回る状況。過剰在庫は改善傾向だが、依然として製品需要低迷により在庫過多との声が多い。

(回答企業の主なコメント)  
原木は順調に入荷している/原木在庫が過剰傾向にあるため、受入調整が必要になると思われる。/前年比原木入荷量は減少しているが、製品出荷減少により在庫が多い/原木の仕入れ不足の可能性あり/

### 【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
R5.6	<b>-88</b>	-81	-58	-	-	-
R5.9	-	<b>-85</b>	-78	-64	-	-
R5.12	-	-	<b>-70</b>	-73	-50	-
R6.3	-	-	-	<b>-57</b>	-52	<b>-30</b>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
当年	204,935	203,546	223,613	-	-	-
(前年)	239,236	239,699	231,299	202,302	204,935	203,546
対前年比	86%	85%	97%	-	-	-

(概況)  
原木消費量は引き続き前年を下回る状況。住宅着工の減少が続く荷動き悪く、回復の見通しがつかない状況との声も多い。

(回答企業の主なコメント)  
荷動きは前年並みに厳しい動きが続くと思われる/製品価格の下落が続く、底が見えない状況。需要も回復は見込めず停滞/住宅関係が良くなるので厳しい/輸送費等の値上がりでより厳しい状況が続くと思う/

### 【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
R5.6	<b>27</b>	25	10	-	-	-
R5.9	-	<b>27</b>	25	19	-	-
R5.12	-	-	<b>6</b>	8	0	-
R6.3	-	-	-	<b>15</b>	19	<b>-2</b>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
当年	235,805	251,858	227,910	-	-	-
(前年)	155,564	153,818	144,911	195,976	235,805	251,858
対前年比	152%	164%	157%	-	-	-

(概況)  
原木在庫は引き続き前年を上回る状況。依然として製品需要の低迷により、在庫過多との声が多い。

(回答企業の主なコメント)  
原木は順調に入荷/原木在庫が過剰傾向にあるため受入調整が必要になると思われる/受注状況が悪く原木消費量が少ないため在庫量が増加。今後も注文の回復の兆しがなく原木在庫が過剰な状態が続くと思われる/

### 【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
R5.6	<b>-90</b>	-86	-50	-	-	-
R5.9	-	<b>-86</b>	-78	-69	-	-
R5.12	-	-	<b>-64</b>	-70	-49	-
R6.3	-	-	-	<b>-63</b>	-48	<b>-27</b>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	2023.4-6	2023.7-9	2023.10-12	2024.1-3	2024.4-6	2024.7-9
当年	187,550	180,271	182,272	-	-	-
(前年)	220,015	211,953	204,892	181,861	187,550	180,271
対前年比	85%	85%	89%	-	-	-

(概況)  
原木消費量は引き続き前年を下回る状況。梱包材・パレット・ラミナの荷動き悪い状態が続いており製品価格の低下を指摘する声も

(回答企業の主なコメント)  
製品の受注が依然として少ない/梱包材、パレットの需要は低迷。価格は2024年度問題で若干の値上がり。ラミナはさらに需要が落ちて回復見込めない/ラミナ価格が値下がりしたまま下げ止まっている状況/